

集会案内

- 毎日曜日： 祈 禱 会 1:15pm - 1:45pm
礼 拝 2:00pm - 3:20pm
ブレイク 3:30pm - 3:50pm
聖書研究 4:00pm - 4:50pm
- 毎月1回： 家庭集会 ラグナ・ウッズ又はアーバイン
10:30am - 昼食
- 出張礼拝 JPシニア・ホームズ
10:30am - 12:00pm
- 教会住所： c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637

- ★ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ★ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。

地 図



ホームページ： www.irvinenihongokyokai.org

Irvine Nihongo Kyokai

連絡先： 榊原宣行 牧師 電話： (714)827-6244
Eメール： nobu@occc.org

杉村 宰 牧師 電話： (714)527-1456
Eメール： sugimura1950@gmail.com

◎ 石叫 ■ 「沁みる夜汽車―四十九歳差の友情」

JR中央線。5年前、福生（ふっさ）駅発、始発7時5分東京行の列車に乗る一人の男性がいた。高山茂さん（当時五十六歳）だった。ある朝、男の子が泣いていた。声を押し殺して泣いている姿があまりにもせつなくて、つい声をかけたのだった。「大丈夫？ お腹が痛いのか？」。うなずくその子を放っておかず、高山さんは電車を降りて、駅員さんに彼を頼んだ。一か月後、高山さんは声を掛けられた。「先日はお世話になりました」。あの時の子どもだなどと思いません。お礼を言われたことがうれしくて。男の子は三宅希拓（きひろ）君（当時六歳）、電車通学を始めたばかりの小学一年生で乗り物酔いし易い体質だった。二人は毎日同じ電車の最後尾で待ち合わせるようになった。「将来は何になりたいの？」「お父さんがやっているクリーニングの仕事を手伝いたい」。希拓君が答えた。「パイロットとか弁護士とか野球選手とか、花形の職業を選ぶと思っていたら、お父さんの仕事を手伝うんだと。偉い子だな、素直な子だなと思った」。そのようにして、高山さんは希拓君の話し相手になった。電車の中の二十分はあつという間に過ぎ、四十九歳差の二人の距離はどんどん縮まっていった。希拓君の父親は言う、「不思議な関係だなあ、入り込めないと思っただけです。友達同士が話しているところに親が割って入ることは普通はないですね。そういう関係でした」。二人の交流は4年間続いた。しかし、別れの時がきた。「いつかはこういう時が来るとは思っていながらね」。一人になった希拓君。いつの間にか乗り物酔いしなくなっていた。あれから2年、今も二人の友情は続いている。今年の夏は富士山に登ろうと約束した。（七月十日「BS1スペシャル」）

人々が主イエスのみもとに幼な子たち連れてきた時、弟子たちがそれをたしなめた。多忙を極める主を、そういう些事と思われる事から少しでも解放させてあげたかったのだ。その時、主は「幼な子らをそのまましておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」（マタイ一九・14）と言って彼らをさとしていた。天国は話しの分かったような大人だけの世界ではなく、むしろ希拓君と高山さんのように、年齢に関係なく、自ずと周りをほのぼのとさせる神の愛と温かさに満ちた国なのである。

Pastor Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会と、シニアホームでの出張礼拝を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。